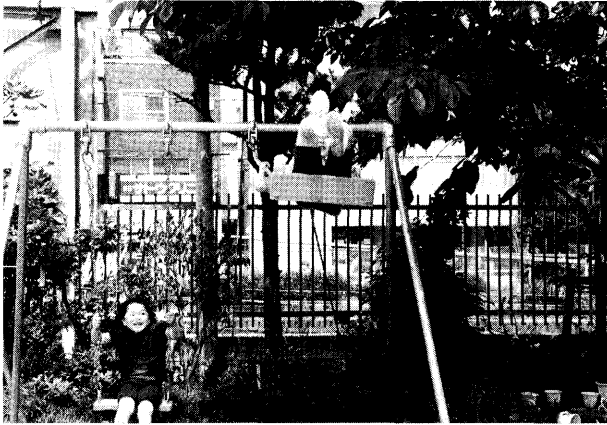
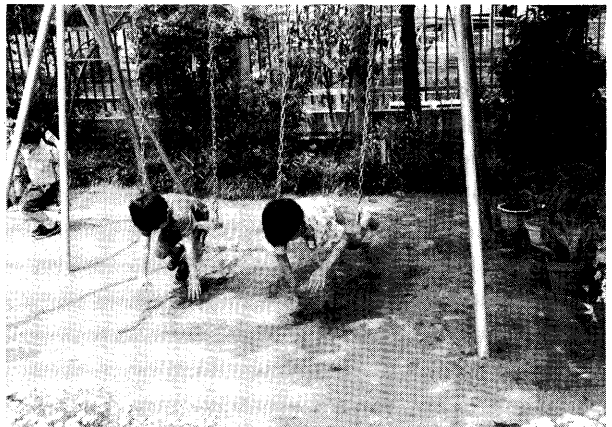




▶ 難しいことに挑戦している。ただ渡るだけじゃ物足りないからか。



▶ ブランコは実はこんなところに目標があった。葉っぱに足が届くくらいに高くこげるのが一つの目安



▶ ブランコも普通に乘ったらつまらない。うつぶせになりながら、揺れにまかせて砂かきをしている。

写真・樋口早百合
 解説・無藤 隆
 協力・目白幼稚園

幼稚園の日々

工夫し挑戦する

平均台の上に登り、地面を歩くのでも難しいやり方で渡ろうとする。慎重に一步一步を探りつつ進んでいく。気持ちは足先に集中する。落ちたらどうなるのだろう。谷底にまっ逆さまだ。いや実はどうということもない。砂地に落ちてしりもちをつくくらいだ。子どもの挑戦は大冒険でもあり、安全なものでもある。遊びに気持ちが向かえばすごいことをやっているように思える。ちょっと距離を取れば、いつもの遊びだ。でも、いつもの遊びでも、ちょっとやり方を変えて、集中すると、冒険の世界に入ってしまう。小さな工夫が大きな冒険に向かう鍵となる。



▶ うんていにぶら下がりがながら、足元でプラスチックの筒をころころと転がす。まるでピエロのよう。



◀ ひとりシーソー。板をちょっと乗せただけでシーソーになった。